

製品名: ACTR-IC ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06563**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	ACVR1C
別名	ACVR1C; ALK7; Activin receptor type-1C; Activin receptor type IC; ACTR-IC; Activin receptor-like kinase 7; ALK-7
遺伝子 ID	130399.0
SwissProt ID	Q8NER5
免疫原	抗血清はヒト ACTR-1C 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 201-250

背景

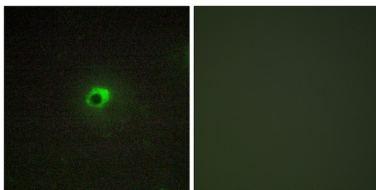
ACVR1C は、TGFB (MIM 190180 参照) ファミリーのシグナル伝達分子に対する I 型受容体です。リガンド結合により、I 型受容体

は細胞質 SMAD 転写因子をリン酸化します。SMAD 転写因子は核に移行し、DNA と直接相互作用するか、他の転写因子と複合体を形成します (Bondestam et al., 2001 [PubMed 12063393])。[OMIM 提供、2008 年 3 月],触媒活性: ATP + [受容体タンパク質] = ADP + [受容体タンパク質] リン酸,補因子: マグネシウムまたはマンガン,機能: リガンド結合時に受容体複合体を形成するセリン / スレオニンタンパク質キナーゼ。受容体複合体は、2つのII型膜貫通型セリン / スレオニンキナーゼと 2つのI型膜貫通型セリン / スレオニンキナーゼで構成されています。II型受容体はI型受容体をリン酸化・活性化し、I型受容体は自己リン酸化した後、SMAD 転写調節因子である SMAD2 および SMAD3 に結合して活性化します。アクチビン AB、アクチビン B、NODAL の受容体です。細胞分化、増殖停止、アポトーシスに関与します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。TGFβ 受容体サブファミリー。類似性: 1つのGSドメインを含みます。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: 2型受容体タンパク質 ACVR2A に結合します。組織特異性: 脾臓、心臓、結腸、小腸、卵巣、脳の海馬、延髄、被殻に存在します。アイソフォーム 1、アイソフォーム 2、アイソフォーム 3、アイソフォーム 4 はすべて、妊娠を通して胎盤で発現します。、

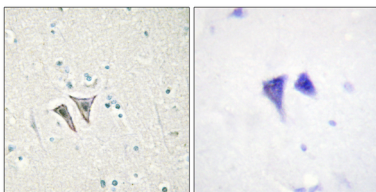
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;エンドサイトーシス;TGF-beta;Adherens_Junction;がんにおける経路;結腸直腸がん;脾臓がん;慢性骨髄性白血病;

画像データ



ACTR-1C 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ACTR-1C 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。